平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働特別研究事業）
「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」

検討課題（5）報告書
「無痛分娩の安全性向上のための医師・医療スタッフの研修体制の整備に関する検討」

研究代表者　海野信也（北里大学病院・病院長）

研究要旨

- 安全な無痛分娩の提供体制を整備するために必要な医師を含む医療スタッフへの研修の内容とその実施体制のあり方について、関係学会・団体で検討し、コンセンサスを得た。
- 関係学会及び団体は、今後の無痛分娩を担う産婦人科医・麻酔科医・助産師・看護師を対象とした「産科麻酔研修プログラム（仮称）」を策定するための新たな組織を設置し、無痛分娩を担う医療関係者全てに共通する研修プログラム及び医療関係者それぞれの専門性に対応した研修プログラムを策定するとともに、専門施設における実技研修等の内容について検討する必要がある。

「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」研究班構成員

（〇：公開検討会構成員、□：作業部会構成員）

【事務局】

研究代表者：　海野信也　　北里大学病院・院長・産婦人科学
研究分担者：　石渡　勇　　石渡産婦人科病院・院長・産婦人科学
研究分担者：　板倉敦夫　　順天堂大学医学部・教授・産婦人科学

【研究協力者】

〇□ 阿真京子　知ろう小児医療守ろう子ども達の会・代表理事：患者（妊産婦）の立場
〇　飯田宏樹　岐阜大学医学部・教授・麻酔科学：日本麻酔科学会より推薦
〇　石川紀子　静岡県立大学看護学部・准教授・助産学：日本看護協会より推薦
〇　後　　信　九州大学病院・教授・医療安全管理部長・医療安全学 医療安全の立場
〇　前田津紀夫　　前田産科婦人科医院・院長・産婦人科学：日本産婦人科医会より推薦
〇　温泉川梅代　　日本医師会・常任理事：日本医師会より推薦
□　天野　完　吉田クリニック・産婦人科学：日本産科麻酔学会より推薦
□　池田智明　三重大学医学部・教授・産婦人科学：日本産科婦人科学会より推薦
□　奥富俊之　北里大学医学部・診療教授・麻酔科学：日本産科麻酔学会より推薦
□　角倉弘行　順天堂大学医学部・教授・麻酔科学：日本麻酔科学会より推薦
□　照井克生　埼玉医科大学・教授・麻酔科学：日本周産期・新生児医学会より推薦
□　永松　健　東京大学医学部・准教授・産婦人科学：日本産科婦人科学会より推薦
□　橋井康二　ハシイ産婦人科・院長・産婦人科学：日本産婦人科医会より推薦

A. **研究目的**： 安全な無痛分娩の提供体制を整備するために必要な医師を含む医療スタッフへの研修の内容とその実施体制のあり方について、関係学会・団体で検討し、コンセンサスを形成すること。

B. **研究方法**：
1）無痛分娩提供体制の安全性向上に資する研修会の実情及び無痛分娩を積極的に実施している施設に対して無痛分娩実地・実技研修体制の実情について検討した。
2）日本看護協会の協力で、助産師・看護師が無痛分娩のケアに習熟するために必要な研修内容について検討した。
3）研究班の事務局において本件に係る課題を整理し、これを作業部会及び公開検討会において検討し、専門学会・団体のコンセンサス形成を行った。

C. **研究成果**：
1） 無痛分娩の安全性向上のための研修会の実態
（ア）関係学会・団体が企画実施する無痛分娩の安全性に関する組織的系統的な研修会は、わが国では行われていなかった。
（イ）重篤な状態に陥った妊産褥婦の救命対応に係る研修会としては、周生期医療支援機構による Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)、日本母体救命システム普及協議会（J-CIMELS）による J-MELS 講習会、「防ぎ得た周産期の死亡」撲滅を目指す周産期医療者の会によるピーシーキューブ等が存在し、それぞれ非常に多くの参加者を集め、活発な活動を展開している。各研修会にはそれぞれ特徴があり、これまでは特に無痛分娩に関わる研修は実施されていなかった。しかし、無痛分娩に関連して妊産婦死亡が発生している状況に対応して、シミュレーション研修の題材に全脊椎麻酔等の麻酔合併症を組み込む動きが始まっている。

日本母体救命システム普及協議会
Japan Council for Implementation of Maternal Emergency Life-Saving System
J-CIMELS

図1 J-CIMELS
硬膜外麻酔下での分娩を安全に行うコース（案）

- J-MELSベーシックコース
  - 4時間のシミュレーション
    - 母体急変（出血、呼吸不全、けいれん、心肺停止等）に必要な救命処置を学ぶ
- ＋硬膜外麻酔対応コース
  - 2時間の座学＋シミュレーション
    - くも膜下腔への局所麻酔薬大量投与による全脊麻
    - 血管内投与による局所麻酔薬中毒
    - 鎮痛によって早期発見が困難となる産道損傷や血種、常位早期胎盤剥離等への注意喚起
    - 陣痛促進と誘発

研究班の検討の中で、その実例として J-CIMELS の活動が報告された（別紙 1）。J-CIMELS は約 2 年間の活動で約 250 回の講習会開催及び約 4500 名の講習会参加を達成してきており、無痛分娩に関する講習内容を充実させることで分娩の安全性向上のための研修体制構築の方策となりうると評価された（別紙 1 ・表 1）。
（ウ）無痛分娩を担当する医療従事者がその安全性向上のための研修会を確実に受講できる体制を整備するためには、必要な研修の内容を明確化するとともに、関係学会・団体が、その内容を確実に提供する研修会を積極的に開催していく必要があると考えられた。

2） 無痛分娩取扱施設における実地・実技研修の実態
（ア）無痛分娩を多数取り扱っている日本産科麻酔学会の会員施設で、人材養成に積極的と考えられる施設に依頼し、無痛分娩の実施体制と医師を対象とした無痛分娩研修の実情を調査した。7 施設から回答を得た（別紙 2）。回答施設は無痛分娩の普及活動において指導的立場で活発に活動している施設であり、これがすべてではないが、わが国における組織的な無痛分娩研修の実情を相当程度反映していると考えられる。
（イ）産科麻酔部門が設置されているわが国の無痛分娩普及に指導的役割を果たしている施設では、各施設で年間数名から 10 名弱程度の医師が実地・実技研修を修了していること、その研修内容は多様であることが明らかになった。研修の質を担保するためには研修内容について一定の基準を検討する必要があると考えられた。

3） 助産師・看護師が無痛分娩のケアに習熟するための研修内容に関する検討：
（ア）講習会の受講及び診療実績については以下のような条件が必要と考えられた。① NCPR の資格を有し、新生児の蘇生ができること。②救急蘇生コースの受講歴を有していること。③助産師についてはアドバンス助産師相当の能力を有することが望ましいこと。④安全な麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上を図るため、関係学会又は関係団体が主催する講習会を受講すること。
（イ）セミナーと実践研修で構成される「無痛分娩に関する看護ケアに習熟した助産師・看護師」養成コース（案）が示され

た。

① 「無痛分娩における看護（助産）ケア」セミナーの内容(例)：

1. 産科麻酔の基礎、麻酔の合併症
2. 安全な無痛分娩管理～観察ポイントと助産ケア
3. 無痛分娩中の助産診断
4. 経過中におこりやすい問題とその対応
5. 記録(麻酔記録と助産記録)
6. CADD の取扱い
7. 使用薬剤の知識、効果、副作用
8. 緊急時の対応、モニタリング
9. 無痛分娩時の分娩監視
10. 無痛分娩の産褥期への影響
11. 医療安全管理体制

② 「無痛分娩実践研修」の内容

1. 研修期間：1 日
2. 研修内容：
   (ア)無痛分娩管理の実際の見学
   (イ)麻酔導入後の観察、分娩監視、分娩進行アセスメント
   (ウ)助産ケア等の実習
3. 研修施設
   (ア)「安全な無痛分娩のための必要条件」を満たす診療体制で相当数の無痛分娩を実施している施設。
   (イ)「無痛分娩に関する看護ケアに習熟した助産師・看護師」に相当する知識と経験を有する助産師による指導体制が存在する施設。

4) 検討の結果、以下のようなコンセンサスを得た。

(ア)安全な無痛分娩の提供体制を整備するため、無痛分娩に関わる医療スタッフに対して、産科麻酔の知識や技術、産科麻酔に関連した病態への対応等を修得する機会を提供し、質の向上を図る必要がある。また、得られた知識や技術を維持し、最新の知識を更新するためには、２年に１回程度、講習課題に応じて適切な頻度で定期的に講習会を受講する必要がある。この研修体制を整備するため、以下の提言を行う。

① 無痛分娩に関わる学会及び団体は、無痛分娩の安全な診療を目的として、無痛分娩に関わる医療スタッフが産科麻酔に関する知識や技術を維持し、最新の知識を更新するために必要な講習会を定期的に開催すること（表1）。関係学会及び団体（日本医師会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本麻酔科学会、日本産科麻酔学会、日本看護協会等）は、以下の目的を効率的に達成できるよう、無痛分娩の安全な診療のために 無痛分娩に関わる医療スタッフが受講すべき講習会を企画、開催すること。

表1 無痛分娩の安全な診療のための講習会

カテゴリー		A	B	C	D
講習会の内容		安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上のための講習会	産科麻酔に関連した病態への対応のための講習会	救急蘇生コース	安全な産科麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上をはかるための講習会
無痛分娩麻酔管理者		●	●	○	
麻酔担当医	麻酔科専門医・麻酔科標榜医		●	●	
	産婦人科専門医	●	●	●	
無痛分娩研修修了助産師・看護師				○	●

●:定期的受講が必要　○:受講歴があれば可

・安全な産科麻酔診療のための最新の知識の修得及び技術の向上

・産科麻酔に関連した病態に対応できること

・救急蘇生が実施できること

・安全な産科麻酔実施のための最新の知識の修得とケアの向上

② 無痛分娩に関わる学会及び団体は、無痛分娩を含む産科麻酔を担う人材を育成するために、「産科麻酔研修プログラム（仮称）」を策定し、研修を実施すること。

③ 関係学会及び団体は、今後の無痛分娩を担う産婦人科医・麻酔科医・助産師・看護師を対象とした「産科麻酔研修プログラム（仮称）」を策定するための組織を設置し、当該組織に参画すること。

④ 当該組織は、無痛分娩を担う医療関係者全てに共通する研修プログラム及び医療関係者それぞれの専門性に対応した研修プログラムを策定すること。研修プ

ログラムを策定するに当たっては、専門施設における実技研修等の内容について検討すること。さらに、策定された研修プログラムを踏まえ、研修体制を整備すること。

D. **考察**:

1) 無痛分娩の安全性向上のための研修についてわが国の現状を含め包括的な検討を行った。その結果、これまで存在しなかった無痛分娩を現在実施している医師を含む医療スタッフを対象とした研修について、関係学会・団体による大枠のコンセンサスを形成することができた。今後は、関係学会・団体が新たな組織を構築して活動していくことが求められる。
2) 現状では無痛分娩の実技研修機会を提供可能な施設は限定されていると考えられる。無痛分娩をこれから担当しようとしている医師及び医療スタッフに対する実地・実技研修体制の包括的内容を「産科麻酔研修プログラム（仮称）」等の形で新たな組織で決定し、研修体制の整備を推進する必要がある。

Ｅ. **結論**:

1）安全な無痛分娩の提供体制を整備するために必要な医師を含む医療スタッフへの研修の内容とその実施体制のあり方について、関係学会・団体で検討し、コンセンサスを得た。
2）関係学会及び団体は、今後の無痛分娩を担う産婦人科医・麻酔科医・助産師・看護師を対象とした「産科麻酔研修プログラム（仮称）」を策定するための新たな組織を設置し、無痛分娩を担う医療関係者全てに共通する研修プログラム及び医療関係者それぞれの専門性に対応した研修プログラムを策定するとともに、専門施設における実技研修等の内容について検討する必要がある。

Ｆ. **健康危険情報**：特になし。
G. **研究発表**：特になし。
H.**知的財産権の出願・登録状況**：特になし。